

青井阿蘇神社(人吉市)

江戸時代初期の慶長15年～18年(1610年～13年)にかけて、当時の藩主であった相良長毎(頼房)(さがらながつね)により造営された

 [video](#)



禊橋(国登録有形文化財)と蓮池

 [video](#)



二の鳥居の向こうに見えるのは楼門



右手の石柱に「国宝」と記されている



「国宝 青井阿蘇神社」と金色で刻まれている



左手にも「日本遺産構成文化財 青井阿蘇神社」、「国宝 青井阿蘇神社 本殿 廊 幣殿 拝殿 横門 江戸時代…」と記された表示板があった/背後の塀の向こうは青井阿蘇神社大宮司であった青井氏の邸宅と庭園(「文化苑」)らしい



青井阿蘇神社由緒

鎮座地

熊本県人吉市上青井町

御祭神

建磐竜神 阿蘇都比売神

国造速戻玉神

当神社は第五十一代平城天皇の美同元年肥後國阿蘇郡鎮座阿蘇神社の御分靈を阿蘇の神主唐方推舉此所に勅請すと、後鳥羽天皇建久九年極良浜当郡に封ぜられ其の後慶長二年二百五十余社の宗社と定め神領二百十六石を供奉し大宮司をして統轄せしむ祭祀最き社嚴を經の神社を中心として領内に奉政一致の範を示し子孫累代其の遺風を守り明治初年に及ぶ爾來当地方の一の宮として郷民深く尊崇す。本殿渡殿幣殿舞殿樓門は国の重要文化財にして慶長五年藩主相良長毎之を奉納す。豪華約顯たる桃山様式の代表的建造物で樓門の神額は文台主三品堯知法親王の親筆である。

明治五年郷社に列格昭和十一年県社に昇格昭和三十四年神社本庁の別表神社に加列せらる。例祭　自十月三日至九日　祈年祭二月十七日新嘗祭　十一月二十三日　夏越祭旧六日晦日

楼門/三間一戸八脚門/寄棟造の茅葺/棟上には千木を置いている/禅宗様に桃山様式を採り入れたもの/慶長18年(1613年)完成

 video





組物は初層を二手先、上層を三手先とし、柱上には初層・上層ともに台輪を回す/初層組物間の琵琶板に施された透かし彫りは「二十四孝物語」など大陸の影響が見られると
いう/二階の正面には扁額が掲げられているが、これは人吉藩第三代藩主の相良頼喬が延宝5年(1677年)に奉納したものであり、林春常の裏書が残るという





二階の組物は尾垂木付きの三手先で、四隅には鬼面を挟んでいるが、これは全国にも他に類がなく「人吉様式」と呼ばれているらしい/組物間には彩色された格狭間が見える



背面から見た楼門



雌雄の龍が描かれているという初層の鏡天井を見上げたところ/色彩の剥落が見られる



拝殿/慶長16年(1611年)完成/桁行7間、梁間3間/寄棟造の茅葺/唐破風の向拝が付く/軒は出桁造



左手から見たところ

 [video](#)



右手から見たところ/拝殿の右奥には、幣殿、廊、本殿が連なる



幣殿/慶長15年(1610年)完成/桁行五間、梁間三間/寄棟造の茅葺/軒は一軒の疎垂木/長押上に格狭間と小壁の彫刻が見える



長押上の小壁には動植物の彫刻が施されているが、それらの画題は柱を越えて連続している/また銅金具は露を表現しているなど、当時の最先端の技法を随所に採り入れているという

 [video](#)



幣殿(左手)と本殿(右手)を繋ぐ廊は、桁行一間、梁間一間/切妻造の銅板葺/慶長15年(1610年)完成

 [video](#)



そこで、右手を見たところ/廊の柱の持送りに阿吽の形相をした一対の龍の彫刻が施されており、これは南九州の近世寺社建築に影響を与えたとされる



本殿/慶長15年(1610年)完成/三間社の流造/屋根は銅板葺/軒は二軒の繁垂木/身舎は円柱を立てて長押で固め、組物は二手先とし、中備には蟇股を置く/妻飾の各所には彫刻が施され、装飾性に富んでいる



側面と背面には「×」型の棧が入れられ、長押上の中壁には赤や緑で塗られた格狭間を設けるなど、球磨地方の寺社ならではの特徴が見られるという



妻飾は虹梁大瓶束であり、大瓶束には藤の透かし彫りが施され、笈形には雲紋、妻壁板には雲龍が彫られている



さて、これは境内社の青井大神宮 内宮・外宮/人吉市指定文化財



あおい だいじんぐう ないぐう げくう 青井大神宮 内宮・外宮

種別 人吉市指定有形文化財（建造物）

所在地 人吉市上青井町118番地

指定日 平成25年5月28日

概要

史料には「伊勢大神宮」「伊勢宮」「皇太神宮」などとも見え、人吉球磨地域の伊勢信仰の拠点となった神社である。

寛文3年（1663）に京都神楽岡大神宮の分霊を勧請し創建したと伝わる。その後、元文3年（1738）に藩主相良長在が急死したため、4歳で家督相続した頼峯の「御家連続」を祈願して、寛保2年（1742）に再興されている。

向かって右社が内宮の「天照 皇 太神」、左社が外宮の「宇氣 皇 太神」、どちらも一間社神明造でもと茅葺きの社殿であった。

内宮、外宮ともに、人吉球磨地域では類例の少ない本格的神明造の社殿で、屋根が鉄板葺きに改修されているが、造営時の姿をよく留めており、人吉藩における伊勢信仰を考えるうえで貴重な建造物である。

この側面と背面にも「×」型の棧が入れられていた

[video](#)



こちらは同じく境内社の青井稻荷神社



稻荷神社（いなりじんじゃ）

- ◆御祭神 宇迦魂神（うがのみたまのかみ）
大田神（おおたのかみ）
大宮神（おおみやのかみ）
- ◆大祭日 旧暦二月の初午日（はつうまのひ）
- ◆月次祭 每月二十五日
- ◆鎮座縁日 七月二十五日

御祭神の宇迦魂神は稻の靈で、大田神、大宮神とともに食物を司る神として信仰されています。

ご鎮座は宝暦九年（一七五九）相良第二十七代頼央（よりひさ）の時代ですが、当時人吉は度重なる災害や藩主の交代で経済的にも精神的にも疲弊しており、豊饒と藩内の安泰を願い祈り勧請創建されたのでした。正一位稻荷大明神と書かれた拝殿正面の神額は、宝暦十一年に安藤松壽泰倫氏により揮毫されたものです。このご社殿は、天保五年（一八三四）に家内安全・産業繁榮・如意安樂を願い現在の相撲場南側に造営されたものですが、昭和三十年頃に現地に遷されました。現在では稻荷の神様の縁日である旧暦二月の初午日に、初午大祭が盛大に斎行されています。

この説明板の左下に、青井阿蘇神社社殿内部の様子が載っていた



